

## 石黒家武家屋敷: 仙北市指定史跡

石黒家は、1650年代から江戸時代（1603-1867）の終わりに幕藩体制が廃止されるまで角館を治めた佐竹北家の家臣でした。石黒家の屋敷は 1853 年に現在の場所に移されたと考えられています。

屋敷とその敷地は、武家屋敷通りの北よりにある印象的な黒い木の塀（籠子塀）の向こうに佇んでいます。塀ののぞき窓から、見張りが外の通りを見ることができました。

敷地に入るには、江戸時代の武家屋敷によくみられる切妻屋根のついた門（薬医門）を通ります。門の矢板には、この門が 1809 年に建てられたことが記されています。

門の先には、屋根の破風に板彫刻（懸魚）の装飾が取り付けられている正玄関があります。この玄関は身分の高い客のために使われ、商人や日常の用事のためには脇玄関が設けられていました。

母屋の屋根は茅葺きで、伝統的な寄棟式で補修され続けています。庭には築山や庭石、大きなモミの木、東屋があります。石黒家の屋敷は、慎ましいように見えるかもしれませんが、角館で最も古い武家屋敷であり、石黒家の地域での高い地位を示しています。

入場券を購入すれば、屋敷および初期の解剖学の文書、書籍、刀、鎧、道具などの歴史的に興味深い石黒家の蒐集品を見ることができます。石黒家の直系の子孫は今でも母屋に住んでおり、訪れた人に英語による案内を提供しています。